

2016年5月1日

福音書からのメッセージ

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

(ヨハネによる福音書 14 章 27 節)

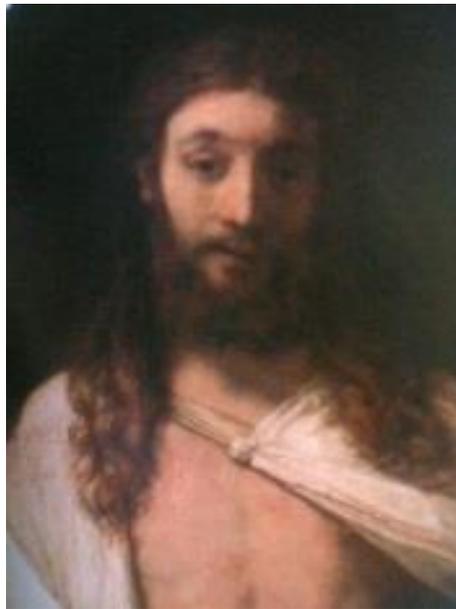
「心を騒がせるな、おびえるな」。このイエス様の言葉は、「強くありなさい。不安など吹き飛ばしてしまいなさい」という命令のように聞こえてしまうことがあるかもしれません。でも、それだけではありません。

今日の箇所はヨハネ福音書の 14 章の場面であり、イエス様が十字架につけられる直前の出来事です。そのせっぱ詰まった状況で、弟子たちに最後の説教を語られました。

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

それがイエス様の語られた言葉でした。イエス様の言葉を守るとは、イエス様が生きたように生き、イエス様が愛したように愛することです。イエス様は、人々に見捨てられ、もう歩くことすらできなくなった人のそばにおられました。また病気や職業のために、人々から疎外され、孤独のうちにあった人のそばに寄り添いました。けれどもそれは、聖書に書かれた過去の出来事ではありません。今このときにも、イエス様はわたしたちの間で、また悲しみ、苦しみの中にある人たちの間で、働かれ、一人ひとりを愛しておられるのです。

しかしイエス様のように生きていこうと思っても、とても難しいことなのです。わたしたちは果たして、そのように歩むことができるのでしょうか。



人間は本当に弱い存在です。わたしは思います。自分の力だけで、神さまの前に正しい者になれることなどないと。世界中どこを探しても、神さまの前に完全な人などいない

のです。

だからこそ、十字架の前に伝える必要があったのです。自分が離れて行ったとしても、わたしはあなたがたに聖霊を与える。だから心を騒がせるな、おびえるなど。

イエス様が約束された聖霊は、わたしたちにすべてのことを教え、イエス様が話したことをことごとく思い起こさせてくれます。聖霊がわたしたちの元で、イエス様の愛の行為を思い起こさせてくれるのです。だからわたしたちがどのような者でも、聖霊の力によってわたしたちはイエス様に倣う者へと変えられていくのです。

わたしたちは時に、心を騒がせ、おびえます。仕方がないことです。でもそのときにこそ、イエス様がわたしたちに聖霊を与え、わたしたちと共について下さり、一緒に住んでくださるという約束を信じて、歩んで行きたいと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>